



**京セラ株式会社**

2024年3月期 第2四半期決算説明会

2023年11月1日

## イベント概要

---

[企業名]	京セラ株式会社
[企業 ID]	6971
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2024 年度 第 2 四半期
[日程]	2023 年 11 月 1 日
[時間]	16:40 - 17:21 (合計: 41 分、登壇: 9 分、質疑応答: 32 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	2 名 代表取締役社長 谷本 秀夫 (以下、谷本) 執行役員 経営管理本部長 千田 浩章 (以下、千田)

## 登壇

---

**司会**：皆様、お待たせいたしました。本日はお忙しい中、京セラ株式会社のウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。ただ今より、2024年3月期上期決算説明会を開催いたします。本日使用いたします資料は、当社ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

なお、本日のウェビナーは録画しております。あらかじめご了承ください。

それでは、最初に本日の出席者を紹介いたします。代表取締役社長、谷本秀夫でございます。

**谷本**：谷本です。よろしくお願いいたします。

**司会**：執行役員 経営管理本部長、千田浩章でございます。

**千田**：千田です。よろしくお願いいたします。

**司会**：それでは、これより説明を開始します。谷本社長、よろしくお願いいたします。

**谷本**：京セラ株式会社の谷本でございます。平素は皆様にご多大のお世話になり、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、2024年3月期上期決算説明会資料に沿って、ご説明いたします。

## 1 2024年3月期 上期 決算概要

## 2 2024年3月期 業績予想

資料の1ページをご覧ください。

本日はこちらに記載のとおり、2024年3月期上期決算概要、および2024年3月期業績予想についてご説明いたします。

## 1 2024年3月期 上期 決算概要

## 2 2024年3月期 業績予想

2 ページをご覧ください。それでは、はじめに 2024 年 3 月期上期決算概要について、ご説明いたします。

(単位：百万円)

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	増減金額	増減率
売上高	1,012,172	985,290	-26,882	-2.7%
営業利益	76,488 (7.6%)	54,002 (5.5%)	-22,486	-29.4%
税引前利益	104,311 (10.3%)	77,867 (7.9%)	-26,444	-25.4%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	75,586 (7.5%)	56,487 (5.7%)	-19,099	-25.3%
平均為替 米ドル	134円	141円		
レート ユーロ	139円	153円		

注：（ ）内の数字は売上高比率

**当社主要市場における需要低迷及びインフレの影響を主因に、減収減益**

3 ページをご覧ください。当上期の売上高は、前年同期に比べ 2.7%減少の 9,853 億円となりました。営業利益は 540 億円、税引前利益は 779 億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は 565 億円となりました。

当社主要市場の需要の低迷やインフレの影響を主因に、減収減益となりました。

(単位：百万円)

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	増減金額	増減率
設備投資額	85,416 (8.4%)	65,963 (6.7%)	-19,453	-22.8%
有形固定資産 減価償却費	52,158 (5.2%)	54,077 (5.5%)	1,919	3.7%
研究開発費	45,717 (4.5%)	50,757 (5.2%)	5,040	11.0%

注：（ ）内の数字は売上高比率

**足元の需要状況に応じて一部設備投資を下期以降へ延期**

4 ページをご覧ください。設備投資額は 660 億円、減価償却費は 541 億円、研究開発費は 508 億円となりました。

足元の需要状況に応じて、一部設備投資を当下期以降へ延期したことなどにより、設備投資額が減少いたしました。

## 2024年3月期 上期 事業セグメント別売上高



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期 上期		2024年3月期 上期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
<b>コアコンポーネント</b>	<b>298,981</b>	<b>29.5%</b>	<b>282,402</b>	<b>28.7%</b>	<b>-16,579</b>	<b>-5.5%</b>
産業・車載用部品	96,790	9.6%	109,165	11.1%	12,375	12.8%
半導体関連部品	188,675	18.6%	158,916	16.1%	-29,759	-15.8%
その他	13,516	1.3%	14,321	1.5%	805	6.0%
<b>電子部品</b>	<b>195,882</b>	<b>19.3%</b>	<b>174,758</b>	<b>17.7%</b>	<b>-21,124</b>	<b>-10.8%</b>
<b>ソリューション</b>	<b>524,078</b>	<b>51.8%</b>	<b>536,839</b>	<b>54.5%</b>	<b>12,761</b>	<b>2.4%</b>
機械工具	162,244	16.0%	159,622	16.2%	-2,622	-1.6%
ドキュメントソリューション	206,060	20.4%	212,891	21.6%	6,831	3.3%
コミュニケーション	98,544	9.7%	105,045	10.7%	6,501	6.6%
その他	57,230	5.7%	59,281	6.0%	2,051	3.6%
その他の事業	10,751	1.1%	10,007	1.0%	-744	-6.9%
調整及び消去	-17,520	-1.7%	-18,716	-1.9%	-1,196	—
<b>売上高</b>	<b>1,012,172</b>	<b>100.0%</b>	<b>985,290</b>	<b>100.0%</b>	<b>-26,882</b>	<b>-2.7%</b>

5

© 2023 KYOCERA Corporation

5 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別売上高の一覧です。詳細については、のちほどご説明いたします。

## 2024年3月期 上期 事業セグメント別利益



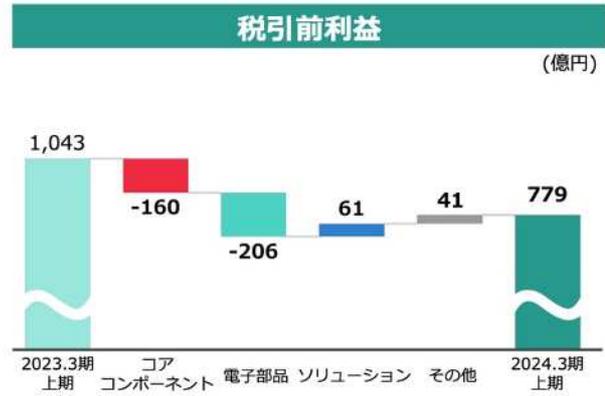
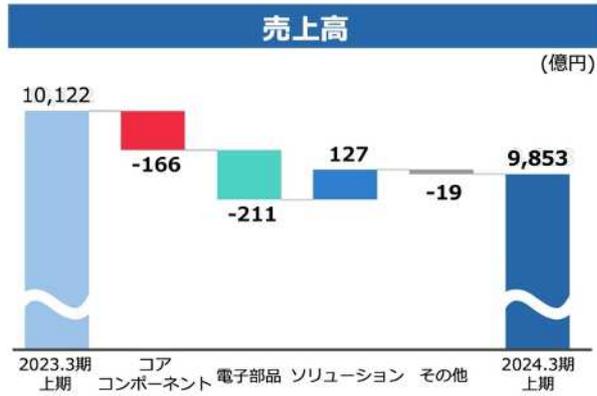
(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2023年3月期 上期		2024年3月期 上期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
<b>コアコンポーネント</b>	<b>46,460</b>	<b>15.5%</b>	<b>30,466</b>	<b>10.8%</b>	<b>-15,994</b>	<b>-34.4%</b>
産業・車載用部品	10,879	11.2%	11,737	10.8%	858	7.9%
半導体関連部品	38,345	20.3%	18,767	11.8%	-19,578	-51.1%
その他	-2,764	—	-38	—	2,726	—
<b>電子部品</b>	<b>30,511</b>	<b>15.6%</b>	<b>9,860</b>	<b>5.6%</b>	<b>-20,651</b>	<b>-67.7%</b>
<b>ソリューション</b>	<b>25,697</b>	<b>4.9%</b>	<b>31,803</b>	<b>5.9%</b>	<b>6,106</b>	<b>23.8%</b>
機械工具	15,336	9.5%	9,212	5.8%	-6,124	-39.9%
ドキュメントソリューション	13,269	6.4%	19,352	9.1%	6,083	45.8%
コミュニケーション	-2,745	—	593	0.6%	3,338	—
その他	-163	—	2,646	4.5%	2,809	—
その他の事業	-12,959	—	-21,281	—	-8,322	—
<b>事業利益 計</b>	<b>89,709</b>	<b>8.9%</b>	<b>50,848</b>	<b>5.2%</b>	<b>-38,861</b>	<b>-43.3%</b>
本社部門損益等	14,602	—	27,019	—	12,417	85.0%
<b>税引前利益</b>	<b>104,311</b>	<b>10.3%</b>	<b>77,867</b>	<b>7.9%</b>	<b>-26,444</b>	<b>-25.4%</b>

6

© 2023 KYOCERA Corporation

6 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別利益の一覧です。



ソリューションは増収となったものの、半導体関連や情報通信市場における主要製品の需要減少の影響を主因に減収

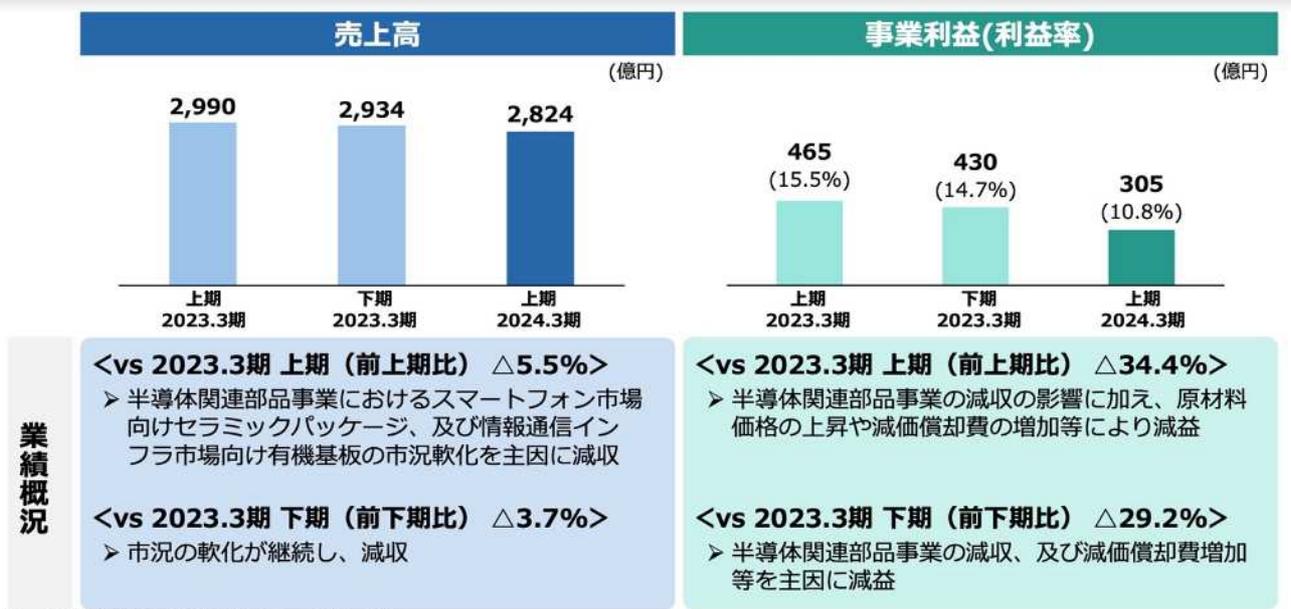
減収の影響に加え、インフレによる原材料価格やエネルギーコスト等の上昇を主因に減益

7ページをご覧ください。こちらは、当上期実績のサマリーを示しています。

スライド左側の売上高をご覧ください。事業セグメント別では、グラフ中央青色のソリューションは増収でしたが、コアコンポーネントと電子部品は、半導体関連や情報通信市場における主要製品の需要減少の影響を主因に減収となりました。

続いて、右側の税引前利益をご覧ください。売上高同様、ソリューションは増加しましたが、コアコンポーネントと電子部品は減少しました。

減収の影響に加え、インフレによる原材料価格、エネルギーコストなどの上昇を主因に減益となりました。各セグメントの売上高、利益の詳細については、次ページ以降でご説明いたします。

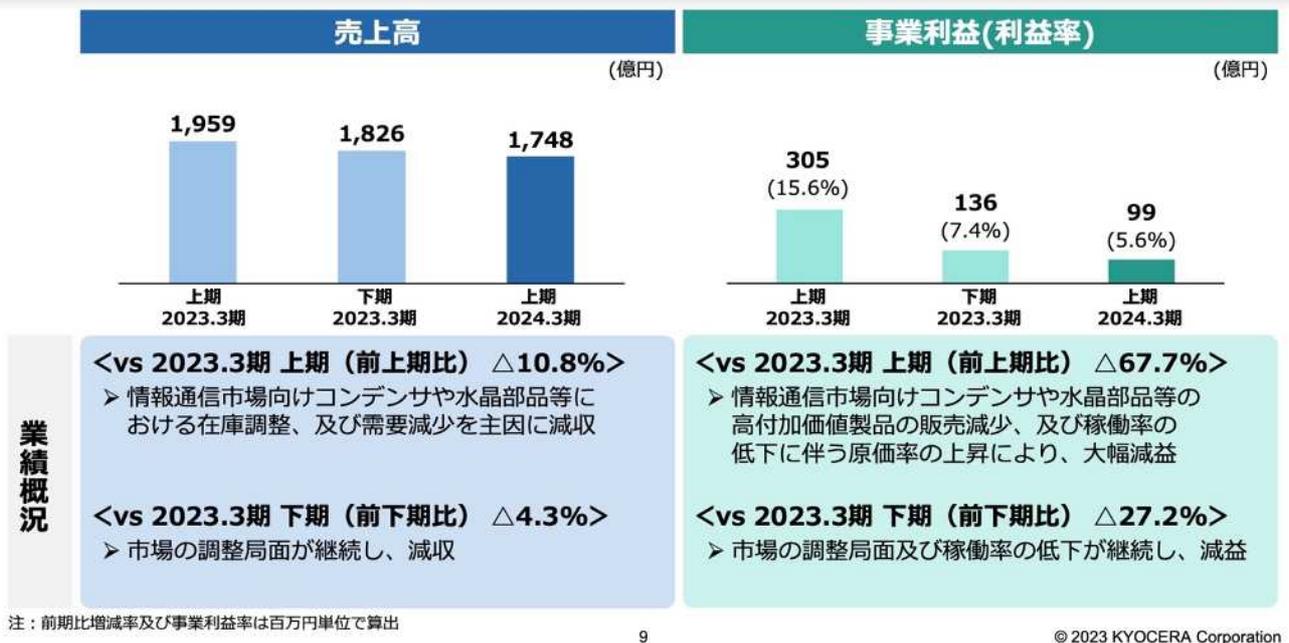


注：前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

8 ページをご覧ください。まずは、コアコンポーネントです。

当上期の売上高は、2,824 億円となりました。半導体関連部品事業におけるスマートフォン市場向けセラミックパッケージ、および情報通信インフラ市場向け有機基板の市況が軟化したことを主因に、前上期比較、前下期比較ともに減収となりました。

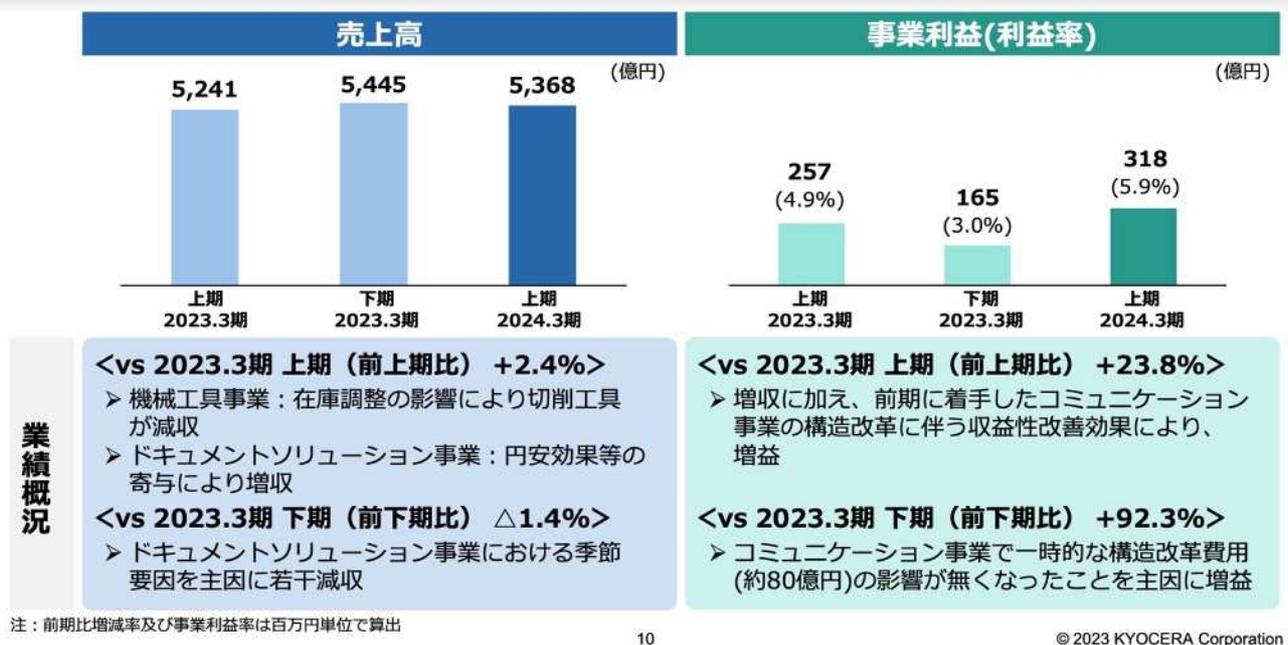
利益は 305 億円となりました。半導体関連部品事業の減収の影響に加え、原材料価格の上昇や減価償却費の増加などにより、前上期比較、前下期比較ともに減益となりました。



9 ページをご覧ください。続いて、電子部品です。

当上期の売上高は 1,748 億円となりました。情報通信市場向けコンデンサや水晶部品などの在庫調整および需要減少を主因に、前上期比較、前下期比較ともに減収となりました。

利益については、99 億円となりました。情報通信市場向けのコンデンサや水晶部品等の高付加価値製品の販売減少、および稼働率低下に伴う原価率の上昇により、前上期比較で大幅減益となり、前下期比較でも減益となりました。



10 ページをご覧ください。最後に、ソリューションです。

当上期の売上高は、5,368 億円となりました。機械工具事業において、在庫調整の影響により、切削工具の減収となった一方で、円安効果などが寄与し、ドキュメントソリューション事業が増収となったことを主因に、前上期比較で増収となりました。一方、前下期比較では、ドキュメントソリューション事業における季節要因を主因に、若干の減収となりました。

利益は 318 億円となりました。増収に加え、前期に着手したコミュニケーション事業の構造改革に伴う収益性改善効果により、前上期比較で増益となりました。一方、前下期比較では、コミュニケーション事業における、一時的な構造改革費用約 80 億円の影響がなくなったことを主因に、大幅増益となりました。

## 1 2024年3月期 上期 決算概要

## 2 2024年3月期 業績予想

11 ページをご覧ください。続いて、2024年3月期業績予想について、ご説明いたします。

## 2024年3月期 業績予想 (1)



(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期予想		増減金額	
		前回予想 (5月公表)	今回予想 (11月公表)	前期比	前回予想比
売上高	2,025,332	2,100,000	2,050,000	24,668	-50,000
営業利益	128,517 (6.3%)	147,000 (7.0%)	120,000 (5.9%)	-8,517	-27,000
税引前利益	176,192 (8.7%)	200,000 (9.5%)	170,000 (8.3%)	-6,192	-30,000
親会社の所有者に 帰属する当期利益	127,988 (6.3%)	145,000 (6.9%)	123,000 (6.0%)	-4,988	-22,000
基本的EPS(円)	356.60	408.40	347.56		
平均為替 米ドル	135円	125円	140円		
レート ユーロ	141円	130円	152円		

注1: ( ) 内の数字は売上高比率  
注2: 2024年3月期予想の基本的EPSは前回予想は2024年3月期第1四半期、今回予想は同上期の期中平均株式数を用いて算出(2024年1月予定の株式分割前の基準)

### 半導体関連や情報通信市場の回復遅れの影響を主因に、通期予想を修正

12

© 2023 KYOCERA Corporation

12 ページをご覧ください。本日、2024年3月期の通期業績予想を修正いたしました。

当社の主要市場である半導体関連や情報通信市場においては、前回予想の前提として想定していた需要の回復が遅れており、スマートフォンの低調な販売が継続していることや、データセンター向けの設備投資が抑制傾向にあることから、コアコンポーネントおよび電子部品において、当初計画に届かない見通しです。

このような事業見通しに鑑み、売上高は前回予想から500億円減額の2兆500億円、営業利益は270億円減額の1,200億円、税引前利益は300億円減額の1,700億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は220億円減額の1,230億円へと、売上、利益ともに下方修正いたしました。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期予想		増減金額	
		前回予想 (5月公表)	今回予想 (11月公表)	前期比	前回予想比
設備投資額	173,901 (8.6%)	275,000 (13.1%)	170,000 (8.3%)	-3,901	-105,000
有形固定資産 減価償却費	108,757 (5.4%)	123,000 (5.9%)	115,000 (5.6%)	6,243	-8,000
研究開発費	94,277 (4.7%)	115,000 (5.5%)	106,000 (5.2%)	11,723	-9,000

注：（ ）内の数字は売上高比率

**設備投資額、減価償却費、研究開発費についても見直しを実施**

13 ページをご覧ください。設備投資額につきましても、前回予想から 1,050 億円減額の 1,700 億円、減価償却費は 80 億円減額の 1,150 億円、研究開発費は 90 億円減額の 1,060 億円に、それぞれ見直しを行っております。

## 2024年3月期 事業セグメント別売上高予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期		2024年3月期予想				増減金額	
	金額	構成比	前回予想 (5月公表)		今回予想 (11月公表)		前期比	前回予想比
			金額	構成比	金額	構成比		
<b>コアコンポーネント</b>	<b>592,376</b>	<b>29.2%</b>	<b>620,000</b>	<b>29.5%</b>	<b>567,000</b>	<b>27.6%</b>	<b>-25,376</b>	<b>-53,000</b>
産業・車載用部品	199,194	9.8%	225,000	10.7%	221,000	10.8%	21,806	-4,000
半導体関連部品	364,579	18.0%	365,000	17.4%	315,000	15.3%	-49,579	-50,000
その他	28,603	1.4%	30,000	1.4%	31,000	1.5%	2,397	1,000
<b>電子部品</b>	<b>378,536</b>	<b>18.7%</b>	<b>390,000</b>	<b>18.6%</b>	<b>358,000</b>	<b>17.5%</b>	<b>-20,536</b>	<b>-32,000</b>
<b>ソリューション</b>	<b>1,068,597</b>	<b>52.8%</b>	<b>1,115,000</b>	<b>53.1%</b>	<b>1,146,000</b>	<b>55.9%</b>	<b>77,403</b>	<b>31,000</b>
機械工具	308,406	15.2%	315,000	15.0%	325,000	15.8%	16,594	10,000
ドキュメントソリューション	434,914	21.5%	455,000	21.7%	473,000	23.1%	38,086	18,000
コミュニケーション	207,793	10.3%	225,000	10.7%	231,000	11.3%	23,207	6,000
その他	117,484	5.8%	120,000	5.7%	117,000	5.7%	-484	-3,000
その他の事業	23,403	1.2%	20,000	0.9%	18,000	0.9%	-5,403	-2,000
調整及び消去	-37,580	-1.9%	-45,000	-2.1%	-39,000	-1.9%	-1,420	6,000
<b>売上高</b>	<b>2,025,332</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,100,000</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,050,000</b>	<b>100.0%</b>	<b>24,668</b>	<b>-50,000</b>

14 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別売上高の一覧です。

前回予想に対し、コアコンポーネント 530 億円、電子部品を 320 億円下方修正した一方、ソリューションを 310 億円上方修正しております。

## 2024年3月期 事業セグメント別利益予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2023年3月期		2024年3月期予想				増減金額	
	金額	売上高比	前回予想 (5月公表)		今回予想 (11月公表)		前期比	前回予想比
			金額	売上高比	金額	売上高比		
<b>コアコンポーネント</b>	<b>89,475</b>	<b>15.1%</b>	<b>86,000</b>	<b>13.9%</b>	<b>65,000</b>	<b>11.5%</b>	<b>-24,475</b>	<b>-21,000</b>
産業・車載用部品	24,743	12.4%	32,000	14.2%	24,500	11.1%	-243	-7,500
半導体関連部品	67,702	18.6%	53,000	14.5%	39,500	12.5%	-28,202	-13,500
その他	-2,970	—	1,000	3.3%	1,000	3.2%	3,970	0
<b>電子部品</b>	<b>44,064</b>	<b>11.6%</b>	<b>55,000</b>	<b>14.1%</b>	<b>24,500</b>	<b>6.8%</b>	<b>-19,564</b>	<b>-30,500</b>
<b>ソリューション</b>	<b>42,239</b>	<b>4.0%</b>	<b>79,000</b>	<b>7.1%</b>	<b>85,000</b>	<b>7.4%</b>	<b>42,761</b>	<b>6,000</b>
機械工具	23,279	7.5%	26,000	8.3%	22,000	6.8%	-1,279	-4,000
ドキュメントソリューション	33,706	7.8%	40,000	8.8%	51,000	10.8%	17,294	11,000
コミュニケーション	-11,729	—	3,000	1.3%	5,500	2.4%	17,229	2,500
その他	-3,017	—	10,000	8.3%	6,500	5.6%	9,517	-3,500
その他の事業	-28,795	—	-45,000	—	-43,000	—	-14,205	2,000
<b>事業利益 計</b>	<b>146,983</b>	<b>7.3%</b>	<b>175,000</b>	<b>8.3%</b>	<b>131,500</b>	<b>6.4%</b>	<b>-15,483</b>	<b>-43,500</b>
本社部門損益等	29,209	—	25,000	—	38,500	—	9,291	13,500
<b>税引前利益</b>	<b>176,192</b>	<b>8.7%</b>	<b>200,000</b>	<b>9.5%</b>	<b>170,000</b>	<b>8.3%</b>	<b>-6,192</b>	<b>-30,000</b>

15

© 2023 KYOCERA Corporation

15 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別利益の一覧です。

前回予想に対し、コアコンポーネントを 210 億円、電子部品を 305 億円下方修正した一方、ソリューションを 60 億円上方修正しております。

当下期は、厳しい事業環境が継続するものと予測されますが、需要回復期に着実に収益改善につながられるよう、引き続き増産体制の構築を図ると同時に、生産性向上に向けた取り組みを進めてまいります。

## ①中間配当金

前中間配当金と同額の1株当たり100円

## ②期末配当金（予想）

株式分割後の基準で25円を予想（年間予想は実質的に変更なし）

<株式分割について>  
 当社株式の流動性向上と投資家層のさらなる拡大を目的に、  
 2023年12月31日を基準日として、普通株式を1株につき4株の割合で分割



16

© 2023 KYOCERA Corporation

16 ページをご覧ください。最後に、配当金についてご説明いたします。

当期の1株当たり中間配当金は、前中間配当金と同額の100円とさせていただきます。

また、期末配当金については、株式分割後の基準で25円を予想しておりますが、株式分割前の基準では100円となり、年間予想の実質的な変更はございません。引き続き業績拡大に努め、株主還元の向上を図ってまいります。以上が、私からの説明となります。

今後とも当社に対しまして、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答

---

### < 質問者 1 >

[Q]：最初は今期の 3Q、4Q の事業セグメント別、コアコンポーネント、電子、ソリューションで分けて、どういう推移をたどるかをもう少し伺えればと思います。

上期から下期、コアコンポーネント、電子部品が横ばいと伸び悩むのは各社共通だと思いましたが、どういう季節性を、御社の場合 3Q、4Q に分けて見ておられるのか。一方、ソリューションはちょっと違うと思うので、売上、利益について、ざっくりと 3Q、4Q の変化を教えてください。

[A]：今期の 2Q が、ほぼ底と予測しております。コアコンポーネントと電子部品につきましては、3Q、4Q はほぼ 2Q からの横ばいと予測し、ソリューションは 3Q、4Q でさらに上げていく見込みに基づき、今回の業績予想の修正となっております。

[Q]：御社は、スマホでもかなり季節性のあるお客さんも多いと思います。3Q、4Q、横ばいとされた電子部品とコアコンポーネント、特に半導体部品は若干違和感があるのですが、いかがでしょうか。

[A]：電子部品は 4Q がいつもかなり落ちるのですが、今期は 2Q、3Q がそもそも例年どおり立ち上がっていないので、大きな落ち込みはないと考えています。

[Q]：なるほど。コアコンポーネントはどうでしょうか。結構半導体部品の影響が出るかと思ったのですが。

[A]：コアコンポーネントは、現状を見ますと 2Q より少し 3Q が上がりそうな雰囲気はあるのですが、ここは少しコンサバティブに横ばいで見ております。

[Q]：コアコンポーネントも、4Q はあまり落ちないという見方があるのですか。

[A]：そうですね。部品によっては携帯電話に使われるもので落ちるものもありますが、それ以外は、既にかなり落ちています。中でも SMD 部品等が少し戻りつつありますので、打ち消しあって横ばいという見方をしております。

[Q]：わかりました。その背後にある生産の考え方は、ほとんど今の状態から変わらず、あまり増減なく進めるというイメージですか。3Q、4Q も、コアコンポーネントと電子のところに関してです。

[A]：あまり増減はないと思います。部品よってのバランスはもちろんあると思うのですが、トータルとしては変わらないと思っています。

[Q]：わかりました。二つ目は、この業績修正の中で、中期の計画の位置づけがどういうふうに変わる可能性があるのか教えてください。先日の本決算で中期計画が出たばかりで、今回投資も1,000億円ぐらい下げられている一方、中期ではROE 7%、税引前利益率 14%というのは結構高いターゲットになってくるかと思っています。

この目線が中期で変わっていないとすれば、何らかの追加的な施策なり、もしくはバランスシートなりを、もう一段いろいろ考えていかないと、なかなかROEの目標は達成しないのかなと思っています。今期の事業環境、業績を受けて、中期計画を実現するために追加的に何をしなければいけないかということについて、バランスシートを含めた考え方は何かございますか。

[A]：ご存知のとおり、KDDI株について前期までは基本的に保有を継続することを考えていましたが、どういう活用の仕方をするべきか、またその上で中期計画をどのようにするのかを、来期に向けてきっちりまとめて発表できるよう、検討している段階でございます。

[Q]：再確認ですが、それは担保にして5,000億円を借りて、M&Aとか投資に使うというのは、ちょっと違う選択肢をいろいろ考えておられるという意味でおっしゃったことですか。

[A]：はい。そういう意味でございます。

## <質問者2>

[Q]：質問は2点です。まず、上期から下期への変化です。全てのセグメントで、上期よりも下期のほうが売上、利益とも増加する計画だと認識しています。コアコンポーネントや電子部品で、下期に上期よりも増益となる、もしくは増収となる前提に対し、セット台数の見通しのようなものもございましたら、お教えください。

[A]：コアコンポーネントにつきましては、細かく申し上げますと、半導体製造装置用部品は想定よりは下がりましたが、前期よりは微増でございました。

大きく落ちていますのは、半導体セラミックパッケージの中のSMD部品です。これは主に電子部品の用途でございますが、これが市場の落ち込み以上に、在庫調整という局面も含めて非常に大きく落ちております。

それと電子部品は、まさに在庫調整を含めて市場の落ち込み以上に落ちましたが、ほぼ在庫調整が終わり、本来の需要のレベルまで戻りつつあるということで、下期の数字を組み立てております。

**[Q]**：わかりました。先ほど4Qは、例年のように落ち込まないということですが、そこにはどんな背景があるのか。もう一度、ご説明をいただけませんか。

**[A]**：通常は、2Qから3Qの初めにかけて、携帯電話の部品が非常に大きく立ち上がって、その反動で4Qが落ちるということになっているのですが、今回はそもそも2Q、3Qの電子部品関連を大きく立ち上げることができませんでした。

その関係で、4Qへ向けて大きく下がるという影響は、一部セラミックパッケージの部品等がございますが、そのほかで打ち消せるという理屈でございます。

**[Q]**：はい、わかりました。ありがとうございます。

質問の2点目が、電子部品の利益が大幅に減少しておりますが、これを京セラ本体、KAVXに分けてご説明いただきたいということと、可能であれば主要製品別、MLCC、水晶、コネクタなどで、期初の想定からどんな変化があるのかご説明をいただけますでしょうか。

**[A]**：まず、京セラ電子部品、KAVXは、どちらも落ちております。どちらかというとなら、KAVXの落ち幅のほうが少し大きくなっていると思います。

それは、KAVXがタイに新工場をつくったのですが、今上期に全く稼動に寄与せず、減価償却費だけが発生したということで、利益の面で大きく落ち込んでおります。

部品別に申し上げますと、まず京セラ電子部品のコンデンサは、携帯電話の減産の影響を受けて大きく落ちております。落ち幅としてはコンデンサと発振部品の水晶部品、この二つが非常に大きな落ち込みになっております。

それと、KAVXは車載向けが非常に多いので、欧州での車載部品がKAVXでは非常に多い一方で、欧州の車載が日本、アメリカに比べて回復が非常に弱かったという面もあって、非常に悪い状態になりました。

**[Q]**：MLCCは、例年北米スマホ向けで2Qに季節的に増加する傾向があったと思うのですが、ここについては、それほどの増加はなかったということでしょうか。

**[A]**：はい、思ったほどありませんでした。

### <質問者3>

[Q]：まず、1問目です。今回、設備投資減額ということで、上期に投資する部分を少し先送りするという形でしたが、今期の設備投資については期初計画と比べて、どういふ変更をかけておられるのか、セグメントごとの内容について教えてください。

[A]：設備投資は期初計画に対して約1,000億円減額になる見通しで、そのうちの約6割がコアコンポーネント、3割が電子部品、ソリューションが1割程度という感じでございます。

[Q]：それぞれ詳細と、あとは先送りされたのか消滅したのか、その辺りもお聞かせください。

[A]：コアコンポーネントは、主に半導体の有機パッケージと半導体製造装置用のセラミック部品の設備投資でございます。いずれも先送りでございます。

電子部品は、国内のMLCCと海外KAVXのタイのタンタルコンデンサが対象で、MLCCへの投資も先送りしております。ソリューションはごく一部ですが、基本的には先送りでございます。

[Q]：はい、わかりました。基本的にはあまり増産計画自体は考えずに、設備の導入のタイミングのところを変えているということでしょうか。

[A]：はい、そうです。

[Q]：なるほど、わかりました。ありがとうございます。

2問目ですが、電子部品で京セラ本体とKAVXのシナジーを取り、今後に向けたアクションを取っておられるということで、3年後に向けかなり大きなシェア拡大を図られています。シナジー向上に向けた上期の進捗状況をお聞かせください。

またソリューションは、スマートエナジー等かなりビジネスモデル自体を転換しなければいけない事業が多いと思いますが、その辺りの進捗状況も併せてお願いいたします。

[A]：まず、KAVXと京セラのシナジーの進捗状況についてですが、前回は申し上げたかもしれませんが、営業部隊の統合に関し、ワールドワイドでの統合が一旦上期で完了しました。KAVXの営業、京セラの営業が、各地区で一体となって一本での営業ができるような体制が整いました。

それと、KAVXのタイ工場については、日本の生産技術が中心になって、日本のレベル以上に自動化を立ち上げるため、今プロジェクトを組んで日本の生産技術者とKAVXの生産技術者が一緒になって、新しい自動化ラインの構築をしています。主に生産面では、日本からの生産技術の支援をKAVXに入れ始めた段階でございます。

つぎにソリューションセグメントの状況でございます。まず、スマートエネルギー、再生可能エネルギーにつきましては、従来の物販からエネルギー販売に切り替えることを進めています。上期の後半には、再生可能エネルギーを集めて、まずは京セラ本体の工場へ、電力売りをするという事業をスタートできました。これは、集められる電力に従いどんどん増えていきますので、下期以降、徐々に増えていくことになると思います。

携帯電話につきましては、コンシューマー向けの販売の縮小は計画どおり進んでおりまして、BtoBの部分に特化した事業転換は計画どおり進んでおります。それと、BtoBの基地局周りの開発につきましても、計画どおりの開発が進んでおります。ソリューションにつきましては、おおむね計画どおり進んでいるところでございます。

[Q]：追加ですが、電子部品のところで、水晶部品についてはいかがでしょうか。

[A]：水晶部品につきましては、京セラ電子部品の水晶の発振部品は、在庫調整という面も含めて携帯電話の落ち込み以上に、現在落ちております。

先を見越した人工衛星等に使われるような、ハイエンドの発振部品につきましては、KAVXで1社買収を行いました。従来やっていなかった衛星等に使われるようなハイエンドの水晶部品について、下期から強化できるような体制ができたと考えます。

[Q]：この水晶部品は、海外の工場における車載向けの生産計画もあったかと思うのですが、その辺りはいかがですか。

[A]：それは、ベトナム工場で準備を計画どおりに進めております。

[Q]：これは準備中ですね。

[A]：はい。

#### <質問者4>

[Q]：最初に、中期経営計画に関連するキャピタルアロケーションのところで、ご質問をさせていただきます。設備投資の計画3カ年で、8,500億円というかなり強い投資計画を掲げていらっしゃると思うのですが、初年度でかなりつまづかれて、来期も華々しく需要が回復するとはとても思えないような状況です。これに対し、キャピタルアロケーションは全面的に見直すというお考えでよろしいでしょうか。

[A]：恐らく1年遅れとか、そういった見直しを入れる必要があらうかと今の段階では思っております。

[Q]：相対的に、電子部品が他社と比べて結構劣後していらっしゃいます。半導体のパッケージは供給過剰状態が続いていますし、とても大きな設備投資ができるような状況にないと思います。1年の遅れではちょっと済まないと思うのですが、その場合に基本的な戦略の考え方を換えられることもあるのでしょうか。

[A]：半導体関連につきましては、1年から2年ぐらい遅れると見ておりますが、数年後にかけての伸び率は、2年遅れぐらいでついていくと考えております。従いまして、2年遅れぐらいで同じ規模の投資を、今のところはやろうと思っております。

[Q]：なるほど。わかりました。ありがとうございます。

2問目は、電子部品に特化した質問です。携帯向けが落ちたというコメントがありましたが、実際携帯向けの市場は恐らく2Qはかなり良かったと思います。他社の数字を見ても、明らかに携帯向けは良かったはずです。

御社に限って良くなかったのか、もしくはシェアを失っているというのが類推されることですが、もし仮にシェアが落ちている、あるいは御社に限って在庫調整が大きくなっているということであれば、その要因について教えていただけないでしょうか。

[A]：MLCCにつきましては、細かいデータは持ち合わせていないのですが、おそらく少しシェアが落ちていると思います。その要因は、恐らくMLCC全体としては、全メーカーを足すとまだ余っていると思います。そのため、シェアの高いメーカーから補充されていったのではないかという予測をしています。

[Q]：なるほど。価格を追随するようなことはしなかったため、回復のタイミングが他社に比べて遅れていると考えてよろしいですか。

[A]：はい。

[Q]：なるほど。わかりました。ありがとうございます。水晶についてはいかがですか、これは中国メーカーが入ってきて、恐らくローエンドは受注が取れていない状況だと思うのですが。

[A]：ローエンドは元々あまり強くなく、水晶部品についてはシェアを取られているという情報はございません。ただし、小型の水晶部品の需要自体が、少し携帯電話以上に落ちた状況はあると思います。

[Q]：わかりました。ありがとうございます。

3点目、KDDI株の保有の方法について見直されるというコメントがございました。つい1年前に担保にして5,000億円を借り入れるということを発表されて、わずか1年で基本的なところの考えを変えられるかもしれないというコメントだと思います。そのようなお考えに至った背景について、どのような変化があり再考されているのでしょうか。

[A]：本年の株主総会において、私と会長に対する再任の賛成率が想定以上に低く、今のままではちょっと難しいと感じたのが、一つの引き金となっています。

#### <質問者5>

[Q]：1点だけです。従来予想と今回予想を比較させていただきますと、コアコンポーネント、電子部品ともに売上変化に対する利益変化が少し大きく、特に電子部品と産業車載用部品のところで、売上の修正と利益の修正のバランスがちょっと悪いような感じがいたします。

事業として、構造的に毀損しているような現象が生じていないかを心配しており、その辺りご解説いただけないでしょうか。元々の計画がちょっと強すぎた、もしくはインフレで少し材料コストが上がっている等、その程度の理由であれば良いのですが、何か悪いことが起きていないか確認させてください。

[A]：電子部品のほうは、主にはKAVX等の新規の設備投資に対して、需要が落ちて全く稼働に寄与しなかったというのが、非常に大きなウェイトを占めております。少しコンデンサのシェアが落ちた等の悪い話もありますが、事業を根本的に揺るがすような問題があったというわけではないと考えております。

コアコンポーネントにつきましても、特に有機基板についての投資を昨年から積極的に続けてきて、その上での落ち込みということで、やはり償却費の占める比率が上がって、原価が押し上げているという、この二つだと思っております。

[Q]：なるほど。そういう意味では、投資と需要のバランス、タイミングのずれが残念ながら生じてしまった一方で、成長に対する投資は基本的には続けているので、その結果としてこうなっているということですね。

[A]：さようでございます。

## <質問者 6 >

[Q]：私も1点だけです。ドキュメントソリューションズのところの考え方を教えてください。

今回こちらだけ上方修正されていて、下期で大きく改善するという予想になっているかと思います。おそらく欧州中心に為替も改善といったところも一部影響あるのかなと思われる一方で、去年の下期はどちらかという各社様注残を抱えて、半導体不足のものが集中して出せた下期だったと思います。どちらかというハードルが上がっている中で、かなり大きな増収増益の計画になっているように見えるのですが、ここの考え方を教えてください。

[A]：上期は、販売台数自体は欧米ではあまり伸ばせませんでした。新製品を下期に投入して、下期販売台数を増やそうというのが基本的な戦略でございます。

[Q]：そうすると、下期に新製品を出してシェアを上げていくという、それに伴って収益性も改善するということでしょうか。

[A]：はい、基本的にはそうでございます。

以上

## 注記

当資料は、SCRIPTS Asia 株式会社によって録音・書き起こしされたものを当社にて一部編集したものです。

## 将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2024年3月期第2四半期決算説明会開催日（2023年11月1日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください

(<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>)。